

2025 年 1 月 18 日

オンライン研究会

「ともに世界に意味を創り出す教育をデザインする」
—「記録」の意味を再構築する—

課題解決だけを目指すのではなく、今ここで生まれている実践から
意味を立ち上げていきたい、多様な意味と価値を創り出す実践を
目指してきました。

その中で緩やかに変容してきた「記録」。何が変容してきたのか。
どうして変容が生まれたのか。

実践者のあり方が記されるといわれる「記録」の意味を実践から
再構築することで、わたしたちの実践のありようを
つかみとっていきましょうとしました。

本研修の目的

わたしたちはなぜ「記録」をかくのか。

本研究報告は、今年度わたしたちが実践を通して研究してきたこれま
でのプロセスを報告させていただきました。

権利主体として今を生きる子どもと、子どもを取り巻くわたしたちが
ともに「実践」を創る過程で、わたしたちは何を思い、今何を感じ、ど
のように未来を描くのか。

現時点での「実践」を通して、今一度ここで参加者の方々と「記録」の
意味の再構築をしていくことを目指す、新たな「研究会」のあり方を
模索しようと試みました。

またオンデマンドにて報告の一部を公開しました。

お力添えをいただいた皆様ありがとうございました。

(参加者：10 名)

(オンデマンド視聴回数：のべ 446 回 3/22 現在)



令和 6 年度 オンライン研究会
ともに世界に意味を創り出す教育をデザインする
—「記録」の意味を再構築する—

「ともにあること」を大切に。
わたしもあなたも、かけがえのない今をここで生きています。
授業実践は、記録を残すためのだけのものではない。
今を大切に「実践」を営むことです。
本研究会では、それぞれの「実践」を兼ね合わせながら、
ここにしかない学びをともに作り上げようことを目指します。

わたしたちはなぜ「記録」を書くのか。

権利主体として今を生きる子どもと、子どもを取り巻くわたしたちが
ともに「実践」を創る過程で、わたしたちは何を思い、今何を感じ、
どのように未来を描こうとしているのでしょうか。
書くことの意味を問いながら重ねてきた「実践」を報告させていただき、
今一度ここで「記録」の意味を再構築していきたいと思います。

ともに学び合いましょ！

令和7年1月18日（土）
9:45～ 接続開始
10:00～11:00 実践研究報告
～研究報告～
～実践報告～
11:00～12:00 グループセッション
12:00～12:30 対話内容共有

保育実践の営みとしてある「記録」

これまでの「記録」

「記録」は、保育実践の営みとしてある「記録」。

「記録」は、保育実践の営みとしてある「記録」。

「記録」は、保育実践の営みとしてある「記録」。

保育実践の営みとしてある「記録」

今ここに記す「記録」へ

「記録」は、保育実践の営みとしてある「記録」。

「記録」は、保育実践の営みとしてある「記録」。

「記録」は、保育実践の営みとしてある「記録」。

「今ここで」を大切にする

子ども一人ひとりにとってはどうしたことなのか？

わたしにとってはどうしたことなのか？

見ている人一人ひとりにとってはどうしたことなのか？

「ともにある」ことを支える「記録」

「ともにある」ことを支える「記録」。

「ともにある」ことを支える「記録」。

「ともにある」ことを支える「記録」。

実践報告

「ともにある」営みをえがこうとする

「ともに」を問い続けながら往還する実践と理念

今、感じる「ともにある」

私と子どもの世界に
隔たりのない

子ども主体

それぞれの思いや
考えを大切に

教師としてのねらい

私のものさしで
解釈せず

子どもの世界を知る

「ともにある」

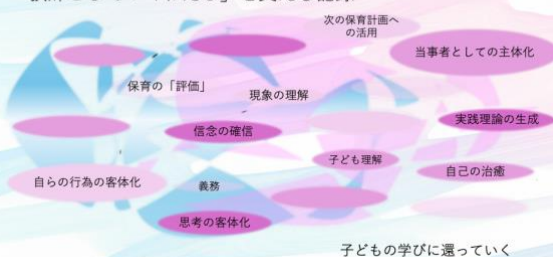
それぞれに
含まれる私

私も仲間の一人
として一緒に創りあげる

お互いに知りあおう

記録と実践を往還し支え
捉えや意味の広がりへ

教師としての「わたし」を支える記録



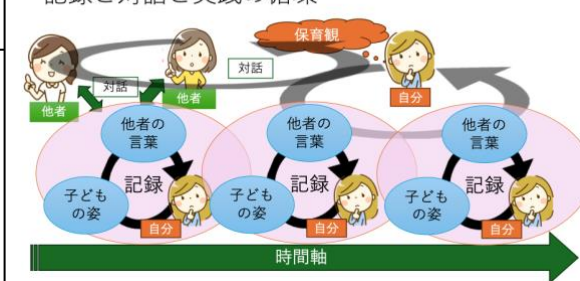
教師としての「わたし」を支える記録

立溝 まい

記録と対話の往還

自らの実践を問い直すために

記録と対話と実践の循環



グループセッションでの内容

Aグループ

幼稚園、特別支援学校、保育園など校種によっても記録の種類が様々であることを知った。「記録」を書くことで、子どもと向き合うことになることを改めて感じた。いろいろな「記録」のあり方に触れることで、「記録」についてそのあり方の捉えが広がる機会となった。

Bグループ

記録の共有について話題にあがった。「記録」を職員が見ることが出来ることで、「記録」が対話につながる。語ることがそのまま「記録」となる可能性、写真が加わることでデジタル記録として残す可能性などもあることがあがってきた。

Cグループ

「記録」の大切さをどのように伝えるかについて考えた。保育者の捉えで書くことで、子どもの明日につながっていくことについて、園内で考えていけるとよい。どうして書くのか、何を大切に記録なのかによって多様な「記録」のありようが見えることが感じられた。

Dグループ

「記録」は誰のために、何のために書くのかをこれからも考えていきたい。「書く」ことが日常ではないこともある。でも他者と「話す」ことを通して応答してもらえることによって「記録」を書くことと同じように自分の言葉をつらねていくことができるのではないかと感じた。

研修設計を振り返って

双方向で取り組んでいる実感はあった。
聞いてくださった方が何に引っ掛かりを感じているかを知ることができた。
いろいろな視点から話せたことがよかった。様々な捉え方を私たちが話すことで、参加いただいた方々も自分の実践に惹きつけながら聞いてくださっていたように感じ

参加者のふりかえり（抜粋）

振り返りの中で自分を見つめていく時間の大切さ、様々な形で記録した事実を分析したり仲間と共有していくことで発見や気づきが生まれて、面白さに繋がっていくこと・・・多様さは一人では難しいので、共有迄の対話も大事で意識していきたいところです。

他者に情報を伝える、ということで記録について考えることも多いのですが、見せるだけではダメで、記録をもとに言葉を交わし合うこと時間も必要であると感じました。ですから、見やすく分かりやすい記録のフォーマットというのは難しい。